
川鉄情報システム株式会社

2003年3月期 決算説明会

2003年5月15日

目次

- . 2003年3月期決算概況
- . 2004年3月期業績見通し
- . 中期3ヵ年計画の概要

本日のポイント

- 03年3月期損益は減収 (-1.2%) 増益 (+4.5%)。
- 04年3月期はEC・EDIシステム事業の立直しとJFEスチール新統合システム対応需要により増収 (+8.4%) 増益 (+4.9%)の見込み。
- マーケティング強化による販売拡大と システム開発コストの削減を柱とする中期3ヵ年計画を策定。
売上高: 420億円、経常利益30億円
(06年3月期連結、M & A含まず)

・ 2003年3月期 決算概況

2003年3月期の業績(単体:計画比)

単位:百万円

	2003年3月期		増減	
	計画	実績	金額	率
売上高	32,368	30,344	2,024	6.3%
売上総利益	5,603	5,173	430	7.7%
(売上総利益率)	(17.3%)	(17.0%)	-	-
営業利益	1,822	1,706	116	6.4%
(営業利益率)	(5.6%)	(5.6%)	-	-
経常利益	1,804	1,687	117	6.5%
(経常利益率)	(5.6%)	(5.6%)	-	-
当期純利益	997	907	90	9.0%
(当期純利益率)	(3.1%)	(3.0%)	-	-

2003年3月期の業績(単体:前期比)

単位:百万円

	2002年 3月期	2003年 3月期	増減	
			金額	率
売上高	30,698	30,344	354	1.2%
売上総利益	5,087	5,173	+86	+1.7%
(売上総利益率)	(16.6%)	(17.0%)	-	-
営業利益	1,655	1,706	+51	+3.1%
(営業利益率)	(5.4%)	(5.6%)	-	-
経常利益	1,614	1,687	+73	+4.5%
(経常利益率)	(5.3%)	(5.6%)	-	-
当期純利益	872	907	+35	+4.0%
(当期純利益率)	(2.8%)	(3.0%)	-	-

事業別売上内訳(単体:前期比)

単位:百万円

	2002年 3月期	2003年 3月期	増減	
			金額	率
ビジネスアプリケーション・ システム事業(BAS)計	24,503	23,928	575	2.3%
(うち川鉄向け)	(11,730)	(11,796)	(+66)	(+0.6%)
(うち川鉄以外)	(12,773)	(12,132)	(641)	(5.0%)
プロダクトベース・ソリュー ション事業(PBS)計	6,194	6,416	+222	+3.6%
全社計	30,698	30,344	354	1.2%

売上高増減の要因

前期比増減： 354百万円、 1.2%

- ・川鉄向けBASは統合業務の増はあったものの、新規開発抑制等によりほぼ横ばい(+66百万円)
(03/4月の統合対応はトラブルなく完了)
- ・金融向けBASが大型案件終了、新規案件の失注等により減少(5億円)し、川鉄以外のBASは売上減(641百万円)
- ・PBSはEC/EDIシステムは不振であったが、**電子帳票システム、CRMシステム**中心に売上増(+222百万円)

事業別売上総利益内訳 (単体:前年同期比)

単位:百万円

	2002年 3月期	2003年 3月期	増減	
			金額	率
ビジネスアプリケーション・ システム事業(BAS)計	3,667	3,724	+57	+1.6%
(売上総利益率)	(15.0%)	(15.6%)	-	-
プロダクトベース・ソリュー ション事業(PBS)計	1,420	1,449	+29	+2.0%
(売上総利益率)	(22.9%)	(22.6%)	-	-
全社計	5,087	5,173	+86	+1.7%
(売上総利益率)	(16.6%)	(17.0%)	-	-

売上総利益増減の要因

前期比増減：+86百万円、+1.7%

- ・製造流通向けの原価、人事システムにおける開発効率の向上、および外注コストの削減によりBASの売上総利益率が向上した。
- ・一方PBSはEC/EDIシステム事業の不振(*)により、売上総利益率が低下した。

(*)売上総利益前期比1億円強のマイナス

販管費、営業外損益の増減(単体:前期比)

■ 販売費・一般管理費 : +35百万円

(02/3:3,431百万円 03/3:3,466百万円)

* 計画比: 314百万円

(計画:3,780百万円 実績:3,466百万円)

■ 営業外損益 : +21百万円

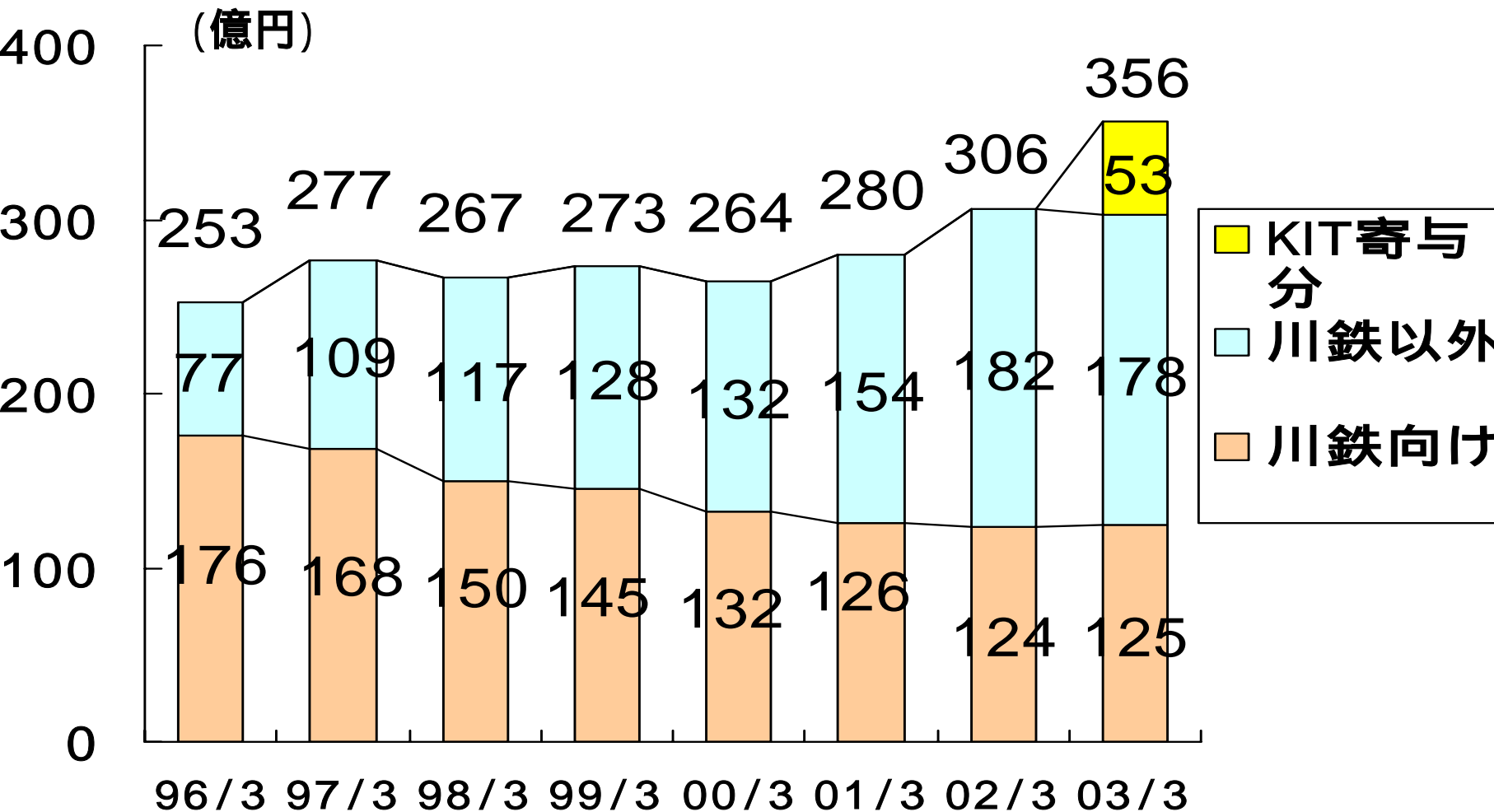
(02/3: 40百万円 03/3: 19百万円)

2003年3月期の業績(連結)

単位:百万円

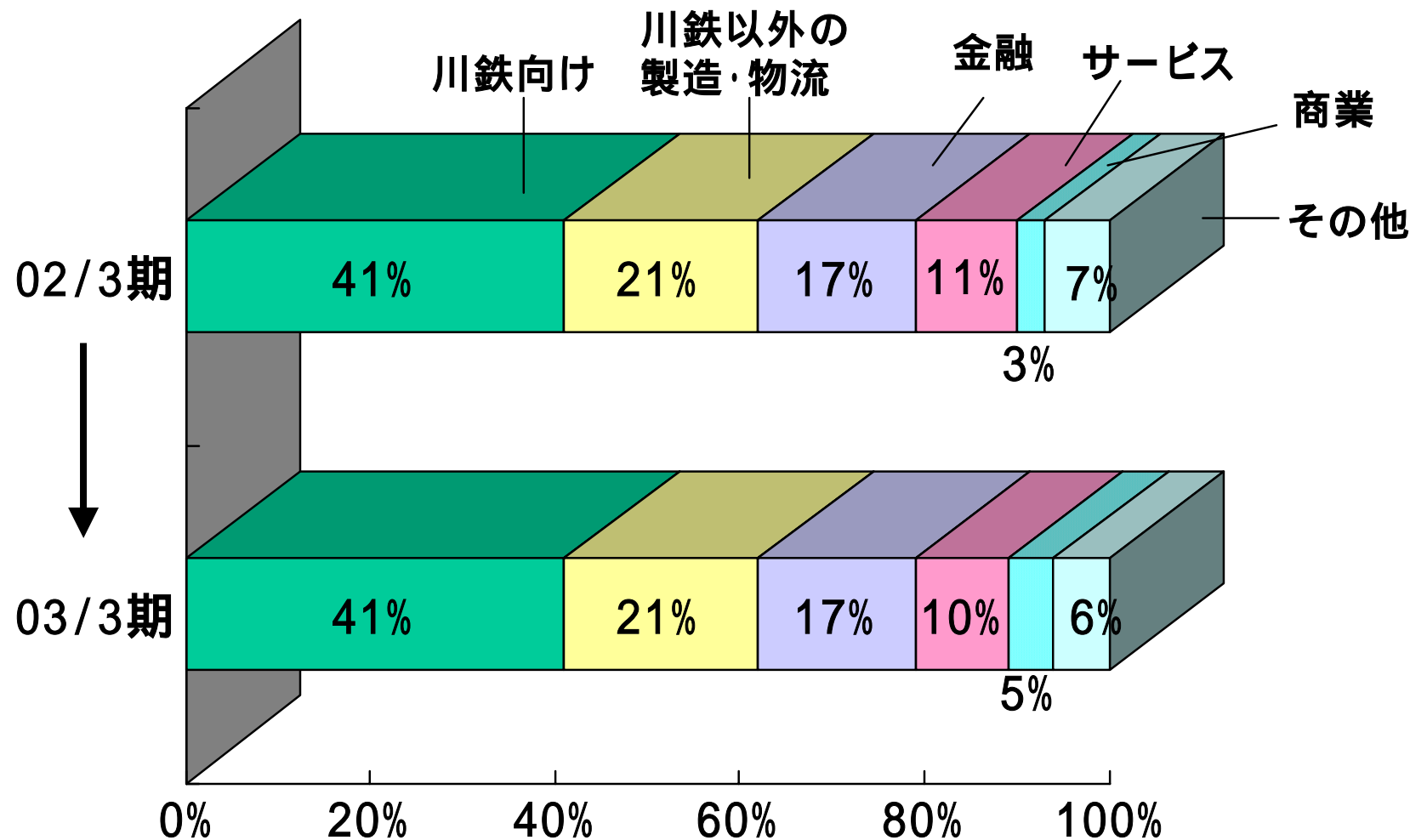
	2003年3月期		増減	
	計画	実績	金額	率
売上高	37,251	35,664	1,587	4.3%
売上総利益	6,722	6,356	366	5.4%
(売上総利益率)	(18.0%)	(17.8%)	-	-
営業利益	1,969	1,905	64	3.3%
(営業利益率)	(5.3%)	(5.3%)	-	-
経常利益	1,949	1,886	63	3.2%
(経常利益率)	(5.2%)	(5.3%)	-	-
当期純利益	1,011	934	77	7.6%
(当期純利益率)	(2.7%)	(2.6%)	-	-

売上高の推移



(注) '03/3期以降は連結売上高見込みを記載

販売先業種構成



主要新規受注案件

	ビジネスアプリケーション・システム	プロダクトベース・ソリューション
製造流通	<ul style="list-style-type: none"> ・石油会社「目標損益管理システム」 ・製薬会社「人事給与システム」 ・厨房機器メーカー「販売物流システム」 ・不織布メーカー「生産管理システム」 ・ステンレス加工「生産計画システム」 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車メーカー、総合商社 「次世代情報基盤構築」 ・外資系日用雑貨メーカー「海外EDI」 ・事務機器メーカー「販売分析システム」 ・輸入雑貨販売「販売分析システム」
金融他	<ul style="list-style-type: none"> ・都市銀行「eバンキングシステム」 ・不動産会社「賃貸管理システム」 ・電力会社「人事厚生システム」 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信会社「新販促システム」 ・信販会社「コールセンターシステム」 ・ソフトウェアベンダー「ECサイトDB構築」 ・都市銀行「分散型帳票システム」 ・金融機関「電子帳票システム」

・2004年3月期 業績見通し

2004年3月期業績予想 (単体)

単位：百万円

	2003年 3月期	2004年 3月期	増減	
			金額	率
売上高	30,344	32,900	+2,556	+8.4%
売上総利益	5,173	5,520	+347	+6.7%
(売上総利益率)	(17.0%)	(16.8%)	-	-
営業利益	1,706	1,770	+64	+3.8%
経常利益	1,687	1,770	+83	+4.9%
(経常利益率)	(5.6%)	(5.4%)	-	-
当期純利益	907	1,000	+93	+10.3%
EPS (円/株)	11,556	12,733	+1,177	+10.3%

04年3月期見通しのポイント

■ 売上高：前期比+2,556百万円 (+8.4%) 増収

金融向けBASの減を織り込んでいるが、**JFE新統合システム関連需要**、ならびにEC/EDIシステムの立直しとCRMシステムの成長による**PBSの事業拡大**を行い、+8.4%の増収を見込んでいる。

■ 経常利益：前期比+83百万円 (+4.9%) 増益

単価ダウンの影響とマーケティング強化のための販管費の増加を織り込んだことにより、増益幅は若干縮小し、**経常利益ベースで+4.9%の増益の見込み**である。

2004年3月期経営指標(単体)

単位:百万円

	2003年 3月期	2004年 3月期	増減	
			金額	率
有利子負債	1,690	700	990	58.6%
株主資本	7,144	7,930	+786	+11.0%
総資本	16,015	15,950	65	0.4%
株主資本比率	44.6%	49.7%	-	-
ROE	13.4%	13.3%	-	-
従業員数(人)	1,374	1,374	0	0%
売上高 / 人	22.1	24.0	+1.9	+8.4%
経常利益 / 人	1.23	1.29	+0.06	+4.9%

2004年3月期業績予想 (連結)

単位：百万円

	2003年 3月期	2004年 3月期	増減	
			金額	率
売上高	35,664	37,600	+1,936	+5.4%
売上総利益	6,356	6,640	+284	+4.5%
(売上総利益率)	(17.8%)	(17.7%)	-	-
営業利益	1,905	1,940	+35	+1.8%
経常利益	1,886	1,930	+44	+2.3%
(経常利益率)	(5.3%)	(5.1%)	-	-
当期純利益	934	1,030	+96	+10.3%
EPS (円/株)	11,895	13,116	+1,221	+10.3%

2004年3月期經營指標(連結)

単位:百万円

	2003年 3月期	2004年 3月期	増減	
			金額	率
有利子負債	1,900	910	990	52.1%
株主資本	7,167	8,030	+863	+12.0
総資本	17,817	17,810	7	0.0%
株主資本比率	40.2%	45.1%	-	-
ROE	13.7%	13.6%	-	-
従業員数(人)	1,597	1,597	0	0%
売上高 / 人	22.3	23.5	+1.2	+5.4%
経常利益 / 人	1.18	1.21	+0.03	+2.3%

中期3ヵ年計画の概要

中期経営目標

- JFEスチール向け以外をさらに伸ばし、
事業規模を拡大する

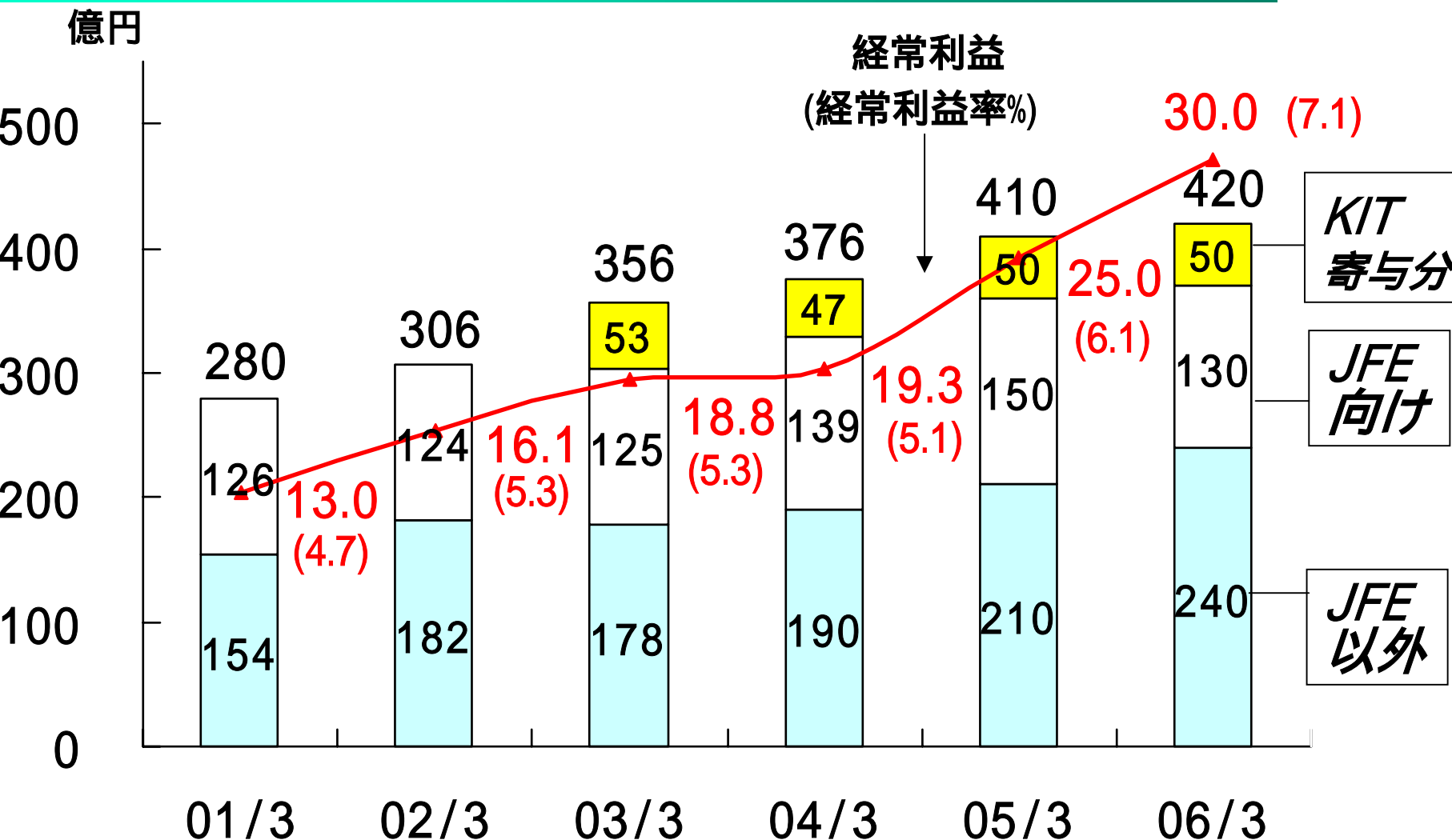
M&Aも含め 売上高500億円/年へ

- JFEスチール新統合システム構築を計画
通り推進する

04/4: 経営管理系(経理、資材等)システムリフレッシュ

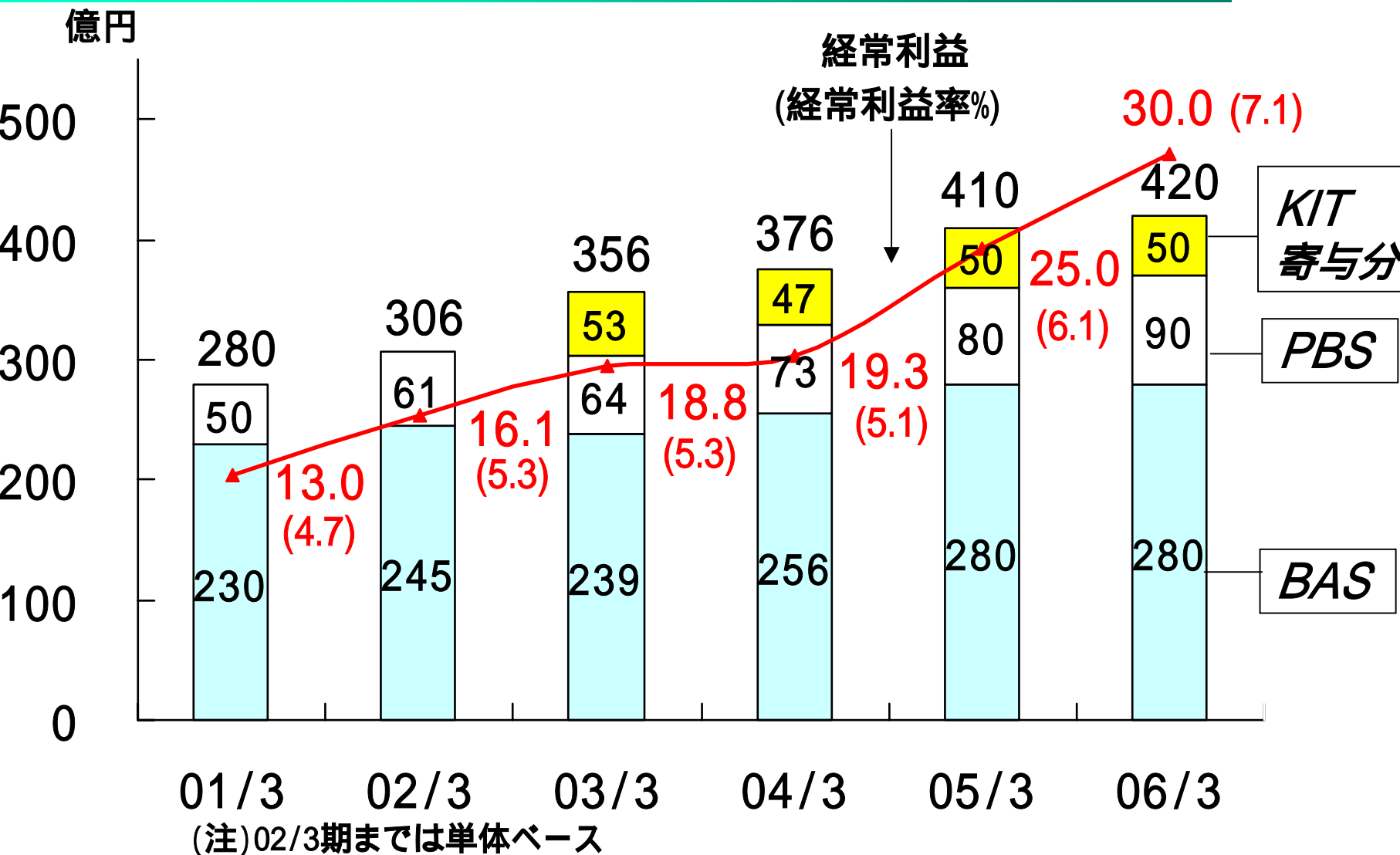
05/4: 販売～生産～物流の一貫運営、一元化

中期収益計画 (向先別)



(注)02/3期までは単体ベース

中期収益計画 (セグメント別)



中期重点課題

- JFEスチール新統合システムの構築
- マーケティング強化
- システム開発コストの削減
- 事業規模の拡大 (M&A)

JFE新統合システムの構築

■ 開発・維持生産性向上を実現する構築技術の採用

(プログラム再利用、修正の局所化が可能なシステム構造を指向)

web/Java、オブジェクト指向、共通DB

■ 業務量、質に見合う要員確保のためのパートナー確保

マーケティング強化

■ 販売力強化のために

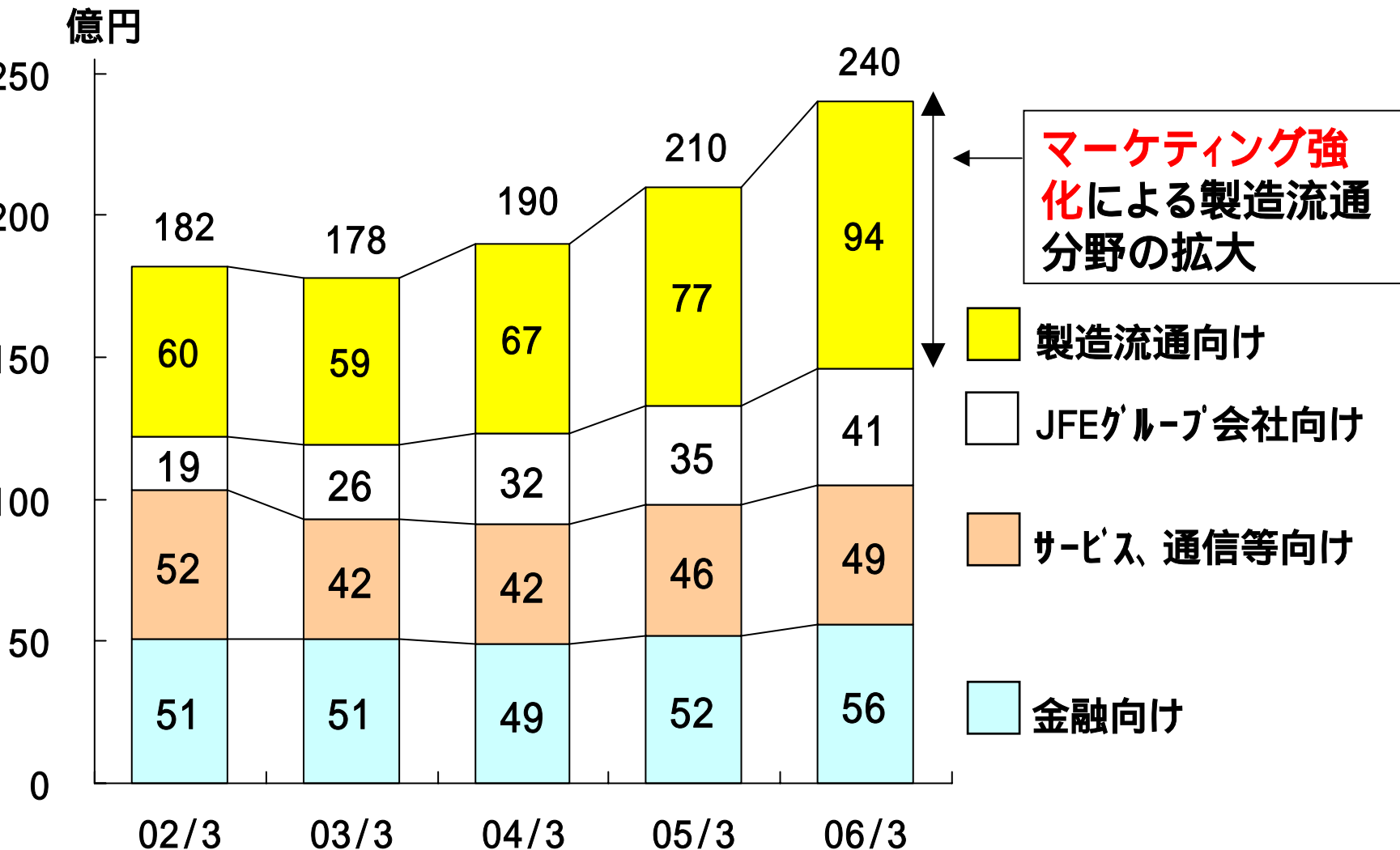
マーケティング部設置 (03年4月)

SI系とプロダクト系の融合による業種別ソリューション(部品組立型製造業等)提供を狙いとした組織再編 (03年7月)

旧川鉄顧客・取引先へのアプローチ、社外アライアンス強化、造船SCM提案etc.を推進

■ 豊田事務所を事業所に格上げし、営業権、開発権を付与 (03年4月)

業種別売上高の推移 (JFEスチール向けを除く、単体)



システム開発コストの削減

■ 開発技術の革新

「部品化、再利用の徹底～労働集約型開発からの転換」

当社流オブジェクト指向の普及、レベルアップと優位性のアピール。

専任組織を設置し、中期3ヵ年でオブジェクト指向適用案件売上高35億円(大幅な利益率向上)を目指す。

当社流オブジェクト指向とは

名称「AGILO²」アジャイロツ-（仮称）

- 当社が長年研究・適用してきたデータベース構築技術（モデリング技術）と、ソフトウェアの部品化再利用技術を、オブジェクト指向によって一体化した**ビジネスアプリケーションシステム構築手法**。
- システム構築方法論に加え、プロジェクト管理手法、実現のためのツール群を体系化したもの。

適用システム構築実績等

■ これまでに9件の適用実績有り

- ・ 信託銀行「不動産信託システム」
 - ・ 不動産会社「賃貸管理システム」
 - ・ 海外製鉄所「熱延生産管理システム」
- etc.

■ 情報システムの激しい価格破壊に対応した大幅な開発・メンテナンスの生産性向上を見込む。

事業規模の拡大 (M & A)

■ 情報サービス業界で勝ち抜くためには 事業規模の拡大が不可欠

早期に売上高500億円/年を達成

- ・視点 部品組立型製造業系情報子会社
- ・視点 ニッチ市場でもトップシェア事業を持つ会社

川鉄情報システム株式会社

ご静聴ありがとうございました。

(ご注意)

本資料の将来の業績等に関する見通しは、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき願います。